

II

前計画の検証

II 前計画の検証

◇重点推進項目における主な成果及び検証

1 将来の農林水産業を支える人づくり

【主な目標指標】

目標指標／年度	H27(現状)	R2(目標)	R2(実績)	R3(目標)	判定
集落営農*組織数	17組織	28組織	23組織	30組織	d
うち法人数	6法人	13法人	10法人	15法人	d
新規就業者数					
農業 ※H26年度からの累計	22人	76人	115人	90人	a
林業 ※H27年度からの累計	3人	25人	36人	30人	a
水産業 ※H22年度からの累計	7人	20人	21人	25人	b
他産業からの年間農業参入数	2社	9社	16社	10社	a

集落営農組織数については、担い手やリーダーの不在により組織の育成が進んでいないため、目標を下回っています。担い手不在集落解消のための、大分市地域農業経営サポート協議会*への支援など、集落営農の機能を補完するための取組も必要です。

新規就業者数については、これまで、県内外での就業相談会*への出展、就農学校の設置支援、研修生に対する支援により、ほぼ目標を達成しており、一定の成果が得られています。

他産業からの農業参入については、平成28年度にベビーリーフを生産する熊本県の大規模農業法人が本市に参入し、大規模な栽培施設を建設したことで、本市の新たな産品や地域雇用の創出に寄与しています。

【判定の仕方】

- a : 十分に達成している(R3年度目標値を達成)
- b : 計画以上で推移している(R2年度の目標値を達成)
- c : 概ね計画どおり(R2年度目標値を9割以上達成)
- d : 計画以下で推移している(R2年度目標値の5割以上9割未満)
- e : あまり達成していない(R2年度目標値の5割未満)

2 信頼され魅力あふれるものづくり

【主な目標指標】

産出額(千円)

目標指標/年度			H27(現状)	R2(目標)	R2(実績)	R3(目標)	判定	
重点推進品目の生産量・産出額	農業	おおば	生産量	544.9t	620t	571.1t	635t	c
			産出額	1,725,158	1,750,026	1,453,909	1,755,000	d
		にら	生産量	1,821.3t	2,161.9t	2,203.3t	2,230t	b
			産出額	883,193	997,199	1,185,962	1,020,000	a
		みつば	生産量	649t	670.7t	588.8t	675t	d
			産出額	399,389	466,565	318,310	480,000	d
		いちご	生産量	189.1t	289.9t	193.9t	310t	d
			産出額	196,633	307,772	222,031	330,000	d
		水耕せり	生産量	143.2t	161.4t	142.3t	165t	d
			産出額	134,931	151,655	110,719	155,000	d
	パセリ	生産量	52.8t	54.6t	35.8t	55t	d	
		産出額	47,482	49,580	30,468	50,000	d	
	ピーマン	生産量	72.5t	145.5t	182.7t	160t	a	
		産出額	25,199	45,867	78,409	50,000	a	
	乳用牛(生乳)	生産量	9.023t	9,128.8t	8,892t	9,150t	c	
		産出額	977,562	996,260	1,053,490	1,000,000	a	
	肉用牛	和牛	生産量	160頭	185頭	123頭	190頭	d
			産出額	106,740	121,957	82,940	125,000	d
		子牛	生産量	588頭	627頭	552頭	635頭	c
			産出額	108,632	109,772	117,090	110,000	a
木材	生産量	11,419m ³	22,736.5m ³	26,000m ³	25,000m ³	a		
	産出額	134,584	272,431	300,000	300,000	a		
乾椎茸	生産量	39.5t	48.3t	38t	50t	d		
	産出額	205,045	225,841	146,946	230,000	d		
関あじ 関さば	生産量	255.5t	267.8t	147t	270t	d		
	産出額	381,756	414,829	185,044	422,000	e		
イサキ	生産量	51.3t	54.4t	33t	55t	d		
	産出額	103,115	106,857	35,506	108,000	e		
年間間伐面積			165ha	195ha	90ha	200ha	e	
年間種苗*放流数			111千尾	116千尾	127千尾	117千尾	a	
直販所販売金額			26億円	28億円	30億円	30億円	a	
6次産業化商品数(補助事業支援商品数)			23品目	45品目	67品目	50品目	a	

重点推進品目について、産地の拡大や新規就業者の確保などが進んでいる品目については、順調に産出量及び産出額を伸ばしていますが、高齢化、労働力の不足、価格の低迷による生産調整や生産意欲の低下などにより目標を下回っている品目もあります。特に、令和元年度以降の新型コロナウイルス感染症拡大による外食需要の減少により、本市の特産品である周年野菜やブランド魚もその影響を受け、生産量・産出額共に伸び悩む大きな要因となりました。今後についても、産地拡大や新規就業者等の担い手の確保、労働力の確保や機械化による作業の省力化に対する支援の強化に加え、製品のブランド化などによる販売力強化やアフターコロナにおける早期の需要回復を図っていく必要があります。

本市特産品を活用し、6次産業化や農商工連携*により商品化された加工品の数(6次産業化商品数)は現時点で目標を大きく上回っています。また、「にら豚*PR大作戦」「りゅうきゅう*PR大作戦」や「大分市しいたけ大作戦」などのキャンペーンを通じ、本市農林水産物の消費拡大については、成果を挙げることができました。

3 特性を生かした活力ある地域づくり

【主な目標指標】

目標指標／年度	H27(現状)	R2(目標)	R2(実績)	R3(目標)	判定
生産基盤を整備する地区数(農業)	—	15地区	14地区	20地区	c
農地中間管理事業*による集積面積	25ha	85ha	184ha	100ha	a
有害鳥獣*による農林水産物の被害金額	16,384千円	6,963千円	7,007千円	5,800千円	c

農地中間管理事業による集積面積については、現時点で令和3年度の目標を大きく上回っており、人・農地プラン*の策定を通じた制度の周知と担い手への農地集積*が進んでいるところです。現状においても、農業法人による本市への参入により大規模なほ場整備*が実施され、今後も引き続き担い手への農地の集積に取り組んでいくことが必要です。

有害鳥獣による農林水産物の被害金額については、個人や団体での防護柵や捕獲わな設置に対する支援を充実させ、地域ぐるみでの有害鳥獣を寄せ付けない環境づくりを促進することにより、順調に減少しています。現在は、これらの施策に加え、ドローン等を活用した追い払い等も実施しているところです。